

医学部における平成16年度 教員個人評価（17年試行）の 集計・分析ならびに自己点検評価報告

1. 個人評価の実施経過

平成17年

- 9月16日（医学部教授会） 「国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準（試行）」の制定に基づき，本試行の実施を決定。
- 9月29日（医学部評価委員会） 個人評価実施基準等を審議・決定。
- 10月27日（医学部評価委員会） 個人評価の実施日程・方法等を審議・決定。
- 11月 7日 医学部全教員を対象に個人評価の実施説明会を実施。個人目標申告書（様式1），活動実績報告書（様式2）及び自己点検・評価書（様式3）の作成・提出依頼。
- 11月30日 提出締め切り
- 12月21日（医学部評価委員会）個人活動実績の取り纏め方法，評価委員会が行う評価の方法等を審議，方針を決定。グループ評価WGを設置。

平成18年

- 1月10日（グループ評価WG）
- 1月31日（グループ評価WG）
- 2月10日（グループ評価WG）
- 2月22日（グループ評価WG）
- 3月 6日（グループ評価WG）
- 3月10日（医学部評価委員会） グループ評価WGの検討結果報告，評価委員会が行う個人評価の実施方法について検討。
- 4月26日（医学部評価委員会） 個人評価結果の通知書式，通知方法ならびに個人評価の集計・分析の作成について審議・決定。

2. 実施の概要

- (1) 実施対象： 医学部全教員のうち，平成16年度に在籍していた医学科基礎系49人，臨床系119人，看護学科26人，地域医療教育研究センター7人，中央診療部門19人の計220人。

表1. 職域，職種別の対象者人数と個人評価調査回答数

（地域医療教育研究センター，中央診療部門の教員は，それぞれ医学科基礎系，臨床系の職域区分に含める）

職域・職種	対象者数	調査回答数	回答率%
医学科基礎系 教授	19	19	100
助教授・講師	18	18	100
助手	19	19	100
臨床系 教授	22	22	100
助教授・講師	43	43	100
助手	73	73	100
看護学科 教授	6	6	100
助教授・講師	11	11	100
助手	9	9	100

(2) 実施組織： 医学部評価委員会（医学部長 1，副医学部長 1，病院長 1，医学科教授 6，看護学科教授 1，事務部長 1 の計 11 名）

(3) 実施内容と方法

1) 医学部の実施基準・指針

本学の「職員の個人評価に関する実施基準および指針（試行）」に基づき、「佐賀大学医学部における職員の個人評価に関する実施基準（試行）」（別添資料 1）ならびに「医学部における個人達成目標及び重み配分の指針（教員用）（試行）」（別添資料 2）を定め、これに準じて実施した。

なお、医学部の実施基準では、本学の実施基準に以下の点を加えたことが特徴といえる。

診療の評価領域。

各教員の「活動実績報告書」及び「自己点検・評価書」の提出、ならびに「個人評価結果」の通知は講座等の長を経由して行う。

講座等の長は職員の活動実績を各講座等においてとりまとめ、評価し、講座等の活動改善の資料とする。

2) 評価項目と評価点

評価領域ごとの評価項目および評価点は、「活動実績報告書」（別添資料 3）に示す内容で実施した。評価点は加算方式で、評価領域ごとの上限（満点）は設けず、評価領域間での満点の統一も行わない方式とした。

3) 各教員による活動領域の重み配分の設定、活動実績報告書の作成と自己点検評価

各教員は、平成 16 年度の活動の重み配分を設定し、各自の活動を「活動実績報告書」に取りまとめ、それを基に自己点検評価を行った結果を「自己点検・評価書」（別添資料 4）に記述して提出した。

4) 平成 17 年度の活動目標と重み配分の設定

上記の平成 16 年度実績の点検評価とは別に、各教員は平成 17 年度の活動目標と重み配分を 17 年度用の「活動実績報告書」記入して提出した。これに関しては 16 年度に在籍していなかった教員 46 人にも提出を求めた。

5) 活動実績の集計と分析

医学部の職域が多様であり、また、その職種によっても求められる活動が異なることから、教員を 医学科基礎系， 臨床系， 看護学科の 3 つの職域に区分し、更に必要に応じて、a 教授， b 助教授・講師， c 助手の職種ごとに分けて、活動実績の集計と分析・評価を行った。

6) 「個人評価結果」の通知内容

個人評価の実施基準（試行）では、5 段階の総合評価を記入した「個人評価結果」を各教員に通知することになっているが、今回は、試行ということもあり、現時点では段階評価の基準を設定するのに必要な十分なデータが集積できていないという判断から、5 段階の総合評価を行わず、当該教員の活動状況の位置付けを示す「個人評価結果表」の形で通知することにした（別添資料 5 - 1， 5 - 2）。

3. 各評価領域における評価項目と活動実績の集計・分析

(1) 教育の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

- [1] 学部教育の実績： 講義・実習・PBL，臨床・臨地実習，選択コース・セミナーの区分で担当時間数を点数化し，主題科目担当や学生による授業評価の高いものには加算点を追加。
- [2] 教育改善の取り組み： 取り組みの実績を自由記載し，取り組みの有無・程度により評点化。
- [3] 教育研修（FD）への参加： 参加回数，時間を評点化。
- [4] 大学院，卒後教育： 大学院授業の担当時間数，研究指導した学生数，学位取得者の指導数，学位論文審査件数をそれぞれ評点化。
- [5] 学内におけるその他の教育活動： 全学または全学部的な講演やオスキー評価者など，時間数を評点化。
- [6] 学生への生活指導等： チューター，クラブ顧問，オフィスアワー等による指導実績の有無を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した教育領域の評点の職域・職種別平均値を表2に示す。

表2. 教育の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		教育領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点								
		平均 評価点数	[1] 講義等	[1] 臨実習	[1] 選択コ	[2] 改善	[3] FD	[4] 院授業	[4] 院指導	[5] 他教育	[6] 学支援
医 学 科 基 礎 系	教授	87.1	50.5	0	9.1	1.9	2.8	5.1	14.8	2.5	0.4
	助教授・講師	56.1	36.1	2.0	4.0	1.9	1.8	2.6	6.3	1.0	0.4
	助手	45.9	29.5	0	7.1	1.9	0.7	0.7	4.9	0.7	0.2
臨 床 系	教授	72.1	13.3	28.3	5.2	1.9	1.3	1.5	19.6	0.6	0.4
	助教授・講師	49.7	12.9	25.1	4.1	1.7	0.9	0.3	3.4	1.2	0.2
	助手	52.7	9.6	36.3	1.4	1.0	0.7	0.0	1.0	2.5	0.1
看 護 学 科	教授	168.4	46.1	38.4	14.7	2.3	2.2	34.8	29.5	0	0.4
	助教授・講師	177.1	57.5	94.5	14.4	2.5	1.5	4.8	1.3	0	0.5
	助手	158.1	29.9	103	2.2	1.6	2.8	14.6	3.22	0	0.4

評価項目実績の概要：

- [1] 学部教育の実績評点は，凡そ 30 時間の講義担当時間数が 10 点に相当するもので，看護学科では，講義に加えて臨地実習の担当が多く高点数となっている。また，教育領域の総評価点のうち 7～8 割以上を[1]の評点が占めるため，学部教育の分担実績が教育領域の評価点を左右する結果になっている。
- [2] 教育改善の取り組みについては，医学科基礎系 56 人中 47 人 84%，臨床系 138 人中 103 人 75%，看護学科 26 人中 17 人 65%が，何らかの取組みを行っているとして自己評価しており，その内容は，授業配布資料の改善・工夫，パワーポイント等による授業方法の工夫，PBLチューター指導の工夫などが多い。

- [3] F Dへの参加では，医学科基礎系 54%，臨床系 43%，看護学科 39%の者が1回以上参加しており，その主なものは，医学部医学教育ワークショップ，P B L 講習会，入試面接セミナーなどである。
- [4] 大学院教育の評点は，教授が高くなるのは当然であるが，実験指導などの貢献も評点化したので，助手にもある程度の評点が付いている。
- [5] 学内におけるその他の教育活動は，全体で 62 件，学内講演会の講師やオスキー評価者としての貢献などがある。
- [6] 学生への生活指導等では，学年別チューター118人（全教員の 54%），オフィスアワー等による指導 26 人，クラブ顧問 29 人の実績が提出されている。

3) 教育領域全体の状況

授業に関しては，職域・職種の特性に相応の教育活動が行われているが，看護学科では全体的に教育負担が高い。

約 3/4 の教員が何らかの教育改善の取り組みを行っており，更なる取組みが望まれる。

F Dへの参加率が全体で 45%に止まり，十分とはいえない。F Dの実施方法・内容を改善していく必要がある。

(2) 研究の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

- [1] 著書，論文等の実績：著書，論文等の発表数とインパクトファクターを点数化。
- [2] 学会発表等の実績：学会発表等の数を学会規模，一般発表，招待発表とに分けて評点化。
- [3] 学会への貢献：学会等の主催，学会役員等の実績を評点化。
- [4] 学術等に関する受賞：受賞の有無を評点化。
- [5] 科学研究費等補助金の申請・獲得：代表者としての申請実績と獲得実績を評点化。
- [6] 特許の申請・取得状況：申請あるいは取得の有無を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した研究領域の評価点の職域・職種別平均値を表3に示す。

表3．研究の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		研究領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点					
		平均 評価点数	[1] 著書論文	[2] 学会発表	[3] 学会貢献	[4] 受 賞	[5] 科研費	[6] 特 許
医 学 科 基 礎 系	教授	35.2	15.1	10.0	4	0	5.5	0.5
	助教授・講師	34.3	16.2	8.7	4.1	0.6	5	0
	助手	24.6	10.2	7	0.6	1.1	5.7	0
臨 床 系	教授	70.5	27.4	22	13.2	1.4	6.1	0.5
	助教授・講師	32.3	14.4	11.8	2.5	0.7	2.6	0.3
	助手	17.4	7.5	6.2	0.9	0.4	2.3	0.1
看 護 学 科	教授	19.8	6	4.7	5.7	0	3.5	0
	助教授・講師	14.1	4.6	1.6	3.9	0	4.1	0
	助手	6.4	1.3	1.0	0.9	0	3.2	0

評価項目実績の概要：

- [1] 平成 16 年の著書総数は 235 で、教員一人当たり換算すると、医学科基礎系 0.6，臨床系 1.3，看護学科 0.5 件になる。論文総数は 668 で、教員一人当たり医学科基礎系 2.5，臨床系 3.4，看護学科 1.3 編であった。
- [2] 学会発表の総件数は 766 で、教員一人当たり換算すると、医学科基礎系 3.6，臨床系 3.8，看護学科 1.5 件であった。
- [3] 学会への貢献では、地方会規模の学会の開催が 15 件、研究会等の主催が 33 件あった。
- [4] 学術等における受賞に関しては、8 件の学会賞や優秀研究賞の受賞があった。
- [5] 科学研究費補助金の新規申請が 186 件あり 継続 43 件と合わせて 80 件の採択 1 億 3,590 万円の助成を受けた。その他に、厚生労働科学研究費補助金が 3 件、3,189 万 7 千円の獲得がある。
- [6] 特許の申請・取得では、6 件の取得と申請中のもの 3 件であった。

3) 研究領域全体の状況

著書・論文数の研究業績を前年度と比較すると、著書数が - 13 と減であるが、論文総数は + 49 と増えている。

研科学研究費補助金の新規申請件数は前年度より - 19 であったが、採択件数で + 1 件、500 万円の微増であった。厚生労働科学研究費補助金も前年度より + 1 件、289 万 7 千円の増であった。

(3) 国際・社会貢献の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

- [1] 国際交流に関する実績：外国人研究者・留学生等の受入件数、公務による国際交流事業等の実績を点数化。(学会等の海外渡航は評点には加えない)
- [2] 海外共同研究：実績件数を評点化。
- [3] 海外技術協力・支援：実績件数を評点化。
- [4] 国内での共同研究・受託研究：実績件数を評点化。
- [5] 学外における教育活動：公開講座，出前授業，講演，講習会，非常勤講師等の件数を評点化。
- [6] 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員など：実績件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した国際・社会貢献領域の評価点の職域・職種別平均値を表 4 に示す。

表 4 . 国際・社会貢献の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		国際・社会 貢献領域	各 評 価 項 目 の 平 均 評 点					
		平均 評価点数	[1] 国際交流	[2] 海外共研	[3] 海外技協	[4] 国内共研	[5] 学外教育	[6] 自治体
医 学 科 基 礎 系	教授	18.7	1.8	1.6	0.3	2.4	6.9	5.6
	助教授・講師	12.6	0.9	0.7	0	2.4	7.1	1.6
	助手	7.9	0.7	1.7	0	0.8	4.7	0

臨床系	教授	31.2	1.1	0.3	0.2	3.1	15.5	11.1
	助教授・講師	10.3	0.6	0.5	0.6	1.5	5.3	1.9
	助手	3.1	0.0	0.1	0	0.3	2.2	0.4
看護学科	教授	14.1	0	0	0	0.1	11.7	2
	助教授・講師	17.3	0	0	0	0.6	14.7	2
	助手	4.7	0	0	0	0.6	4.1	0

評価項目実績の概要：

- [1] 国際交流のうち，外国人研究者の受入は長期・短期を合わせて 10 人，国費及び私費留学生の受入が 11 人，交換学生が 6 人であった。
- [2] 海外共同研究は全体で 28 件あり，相手は北米(19)，欧州(3)，アジア(3)，豪州(2)，アメリカ(1)の大学および研究所であった。
- [3] 海外技術協力・支援の実績は，スリランカ，タイ，ベトナムの各国に対する医療技術支援など 6 件あった。
- [4] 国内での共同研究は全体で 101 件あり，内訳は大学(80)，民間企業(16)，政府機関(12)，自治体(3)で，共同研究費の受け入れを伴うものが 26 件，共同研究員の受け入れを伴うものが 8 件であった。受託研究は全体で 67 件あり，内訳は民間企業(61)，政府機関(6)，自治体(1)で，受託研究費の受け入れを伴うものが 64 件であった。
- [5] 学外における教育活動は，市民公開講座 9 件，高校での出前授業 26 件，市民対象講演 47 件，専門家対象講演 247 件，コ・メディカル等の教育支援非常勤講師 96 件，他大学の非常勤講師等 28 件であった。
- [6] 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員などの貢献は，国 25 件，佐賀県 98 件，佐賀市 9 件，県外 5 件，医師会等その他 17 件であった。

3) 国際・社会貢献領域全体の状況

学部教育に留学生を受け入れ難い分，国際交流の幅が狭い。その分を補う意味でも，海外共同研究等の活動を活性化させる必要がある。

国内では，共同研究・受託研究による社会貢献，市民ならびに専門家対象の講演やコ・メディカル等の教育支援など教育面での社会貢献，および国・地方自治体の各種委員としての貢献が相当数あり，活発な社会貢献を行っている。

(4) 組織運営の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し，評点化を行った。

- [1] 佐賀大学全学委員会，専門部会等における貢献：委員長，委員としての件数を点数化。
- [2] 学部，学科，附属病院の委員会，専門部会等における貢献：委員長，委員としての件数を点数化。
- [3] 教務関係の役職(フェーズ主任，教科主任等)，組織・運営の役職：実績件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と，それらを合計した組織運営領域の評価点の職域・職種別平均値を表 5 に示す。

表5．組織運営の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		組織運営領域	各評価項目の平均評点		
		平均評価点数	[1] 全学委員等	[2] 学部等委員	[3] 教務関係
医学科基礎系	教授	19.5	3.9	9.2	7.6
	助教授・講師	4.0	1.0	2.0	1.0
	助手	0.2	0.1	0.1	0
臨床系	教授	15.1	1.5	10.0	3.6
	助教授・講師	3.4	0.5	2.1	0.7
	助手	0.6	0.1	0.5	0.1
看護学科	教授	50.3	1.7	24.3	24.3
	助教授・講師	13.5	0.4	5.5	7.6
	助手	0.9	0	0.9	0

3) 組織運営領域全体の状況

組織運営の領域では、職務上主に教授が各種委員を担当するため、評価点は教授に偏っている。医学研究科基礎系および臨床系では相応の分担になっているようだが、看護学科ではかなり負担が高い。教員数の関係もあるが、学部内委員会の委員構成の見直しなど、改善策の検討は今後の課題である。

(5) 診療の領域

1) 評価項目と評価点：ここでは以下の項目について点検し、評点化を行った。

[1] 附属病院内 診療活動：総診療実働時間数を点数化。

[2] 病院運営の貢献：チーフレジデント、リスクマネージャー、横断的診療班等としての実働時間および高度先進医療の貢献件数を評点化。

[3] 専門医、指導医等の資格取得状況：取得している資格、新たに取得または更新した資格の件数を評点化。

2) 集計結果：上記評価項目の評点と、それらを合計した診療領域の評価点の職域・職種別平均値を表6に示す。

表6．診療の領域，評価項目の平均評価点

職域・職種 区分		診療領域	各評価項目の平均評点		
		平均評価点数	[1] 院内診療活動	[2] 病院運営	[3] 専門医等資格
医学科基礎系	教授	6.3	5	0.2	1.2
	助教授・講師	8.7	6.1	1.7	0.9
	助手	0.4	0	0	0.4
臨床系	教授	53.7	40.4	6.6	6.6
	助教授・講師	78.6	64.4	8.3	6.1
	助手	104.7	86.8	13.7	4.2

看護学科	教授	5.2	2.7	0	2.5
	助教授・講師	0.0	0	0	0
	助手	0.0	0	0	0

3) 診療領域全体の状況

診療領域に医学科基礎系および看護学科の教員が数名貢献しているが、診療領域は臨床系の教員により支えられている。そのなかでも、評価点は助手が最も高く、次いで助教授・講師，教授の順になっており，診療と病院運営の両方の活動に助手，助教授・講師が大きく貢献していることが示されている。

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析

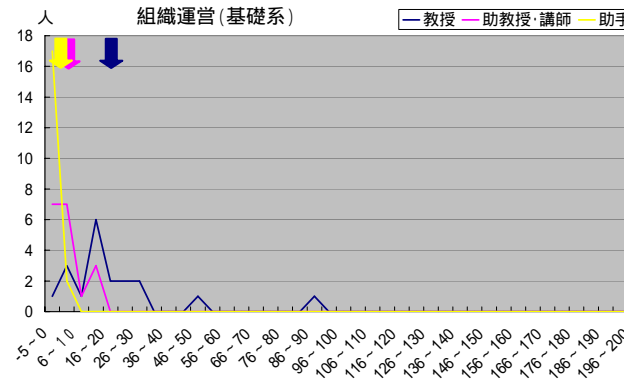
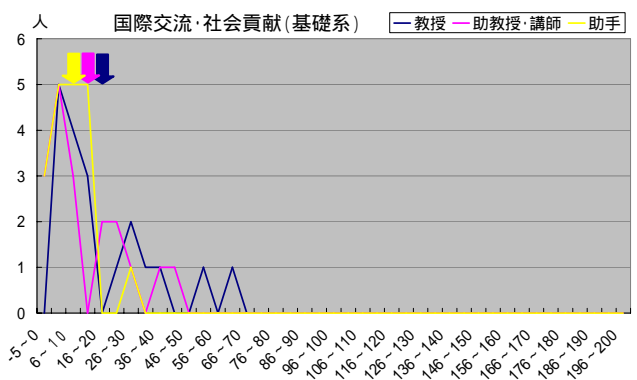
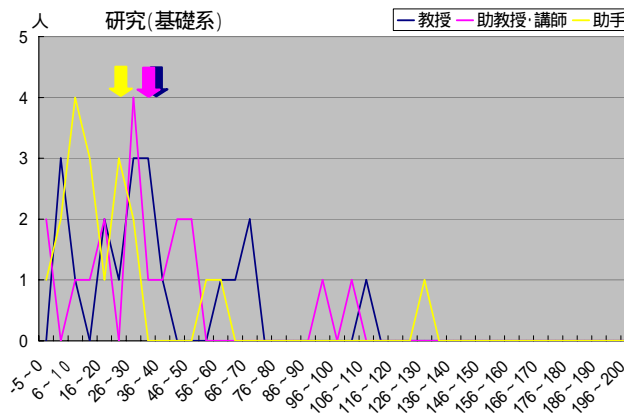
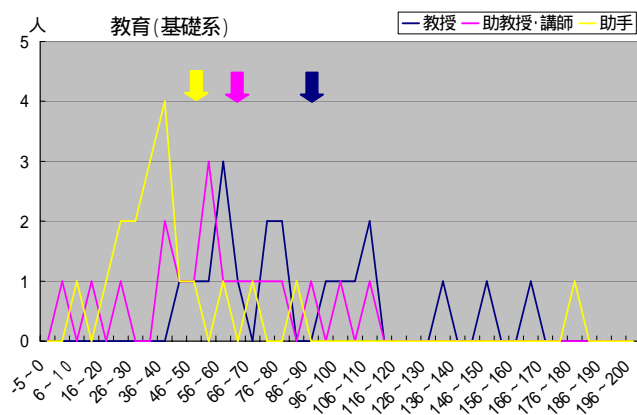
1) 各評価領域における職域・職種別の評価点数分布

各評価領域の評価点数を横軸に、評価点に該当する教員の数（縦軸）をとったグラフで、評価点の分布と平均点（矢印）を職域・職種別（教授は青、助教授・講師は赤、助手は黄色）に示す。

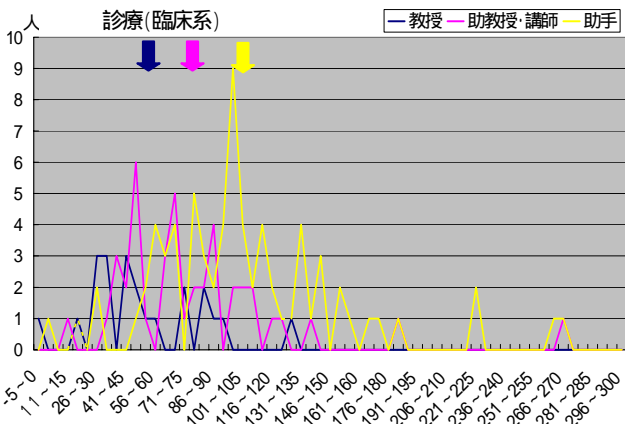
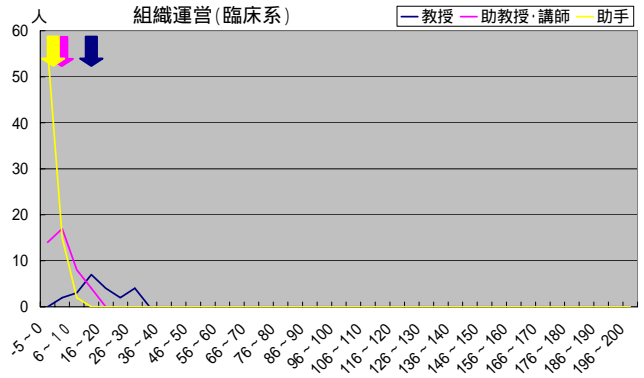
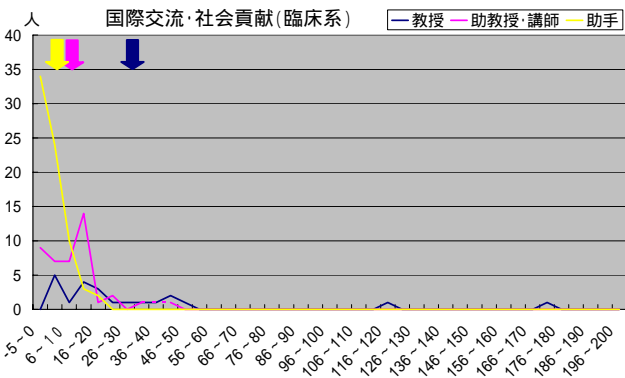
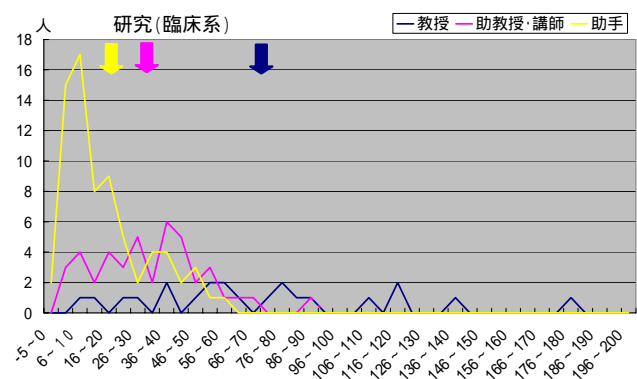
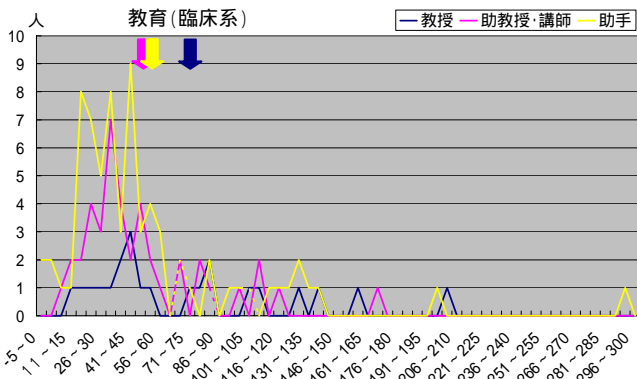
これで見ると、教育、研究、臨床の領域では、数人の教員が飛びぬけて評価点が高く、これらが平均点を引き上げている。

評価点が飛び離れているものについては、その要因について個別に調査する必要がある。

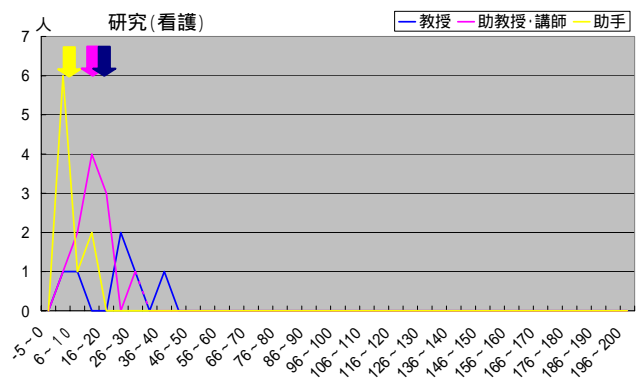
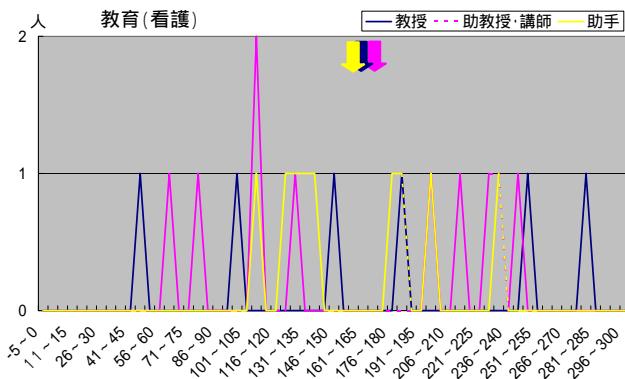
医学科基礎系

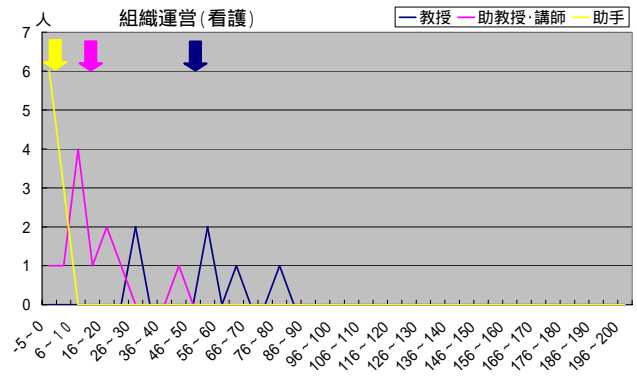
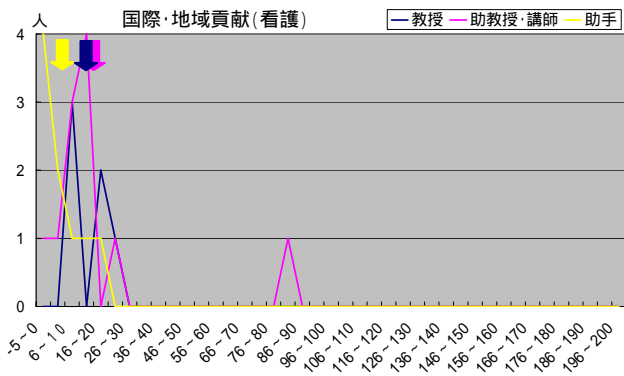


臨床系



看護学科



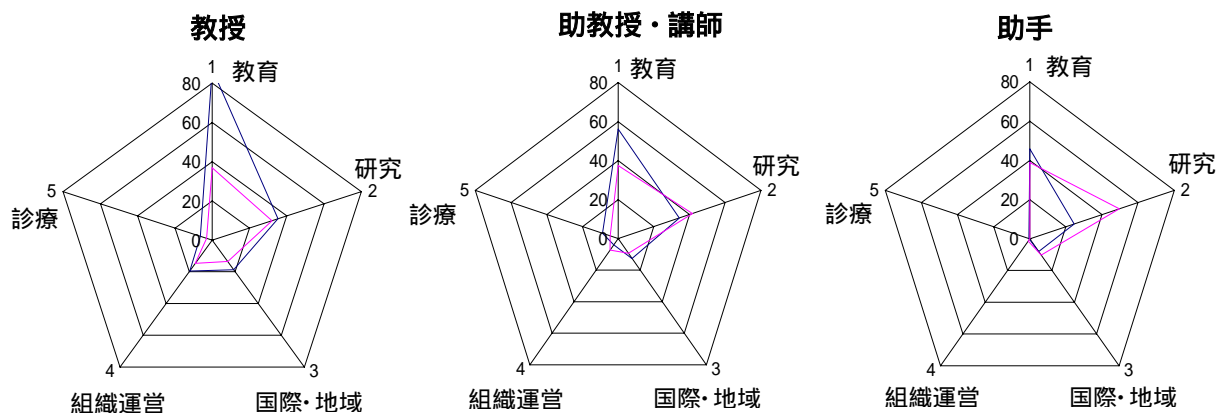


2) 目標とする活動領域の重み配分と評価点との関係

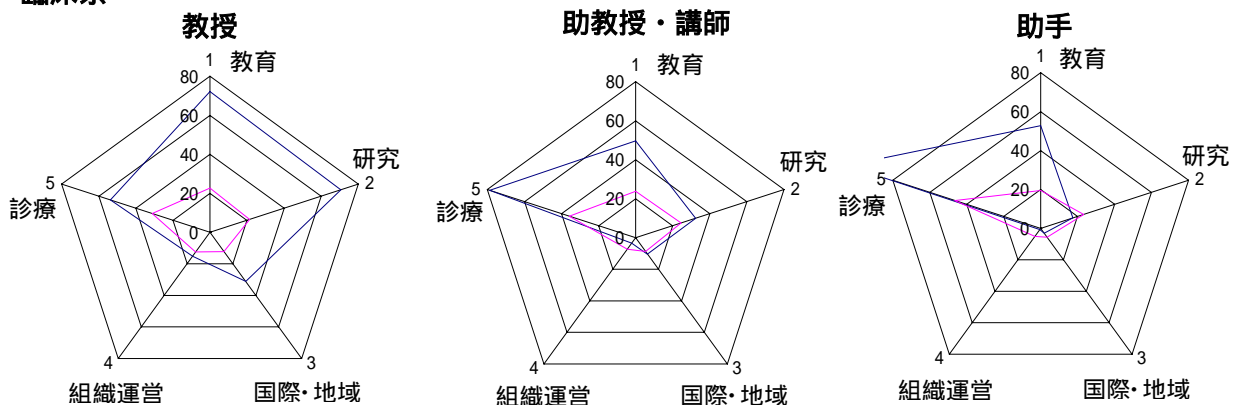
各評領域の評価平均点（青色）と、予め申告した各領域の重み配分の平均値（赤色，100%を100点に換算）を，職域・職種別にレーダーグラフで示す。この場合，両者の点数スケールが異なるので，値は比較にならないが，グラフの形状により活動バランスを比較できる。

これで見ると，医学科基礎系および臨床系では，概ね重み配分と評価点のバランスが取れているが，看護学科では教育と研究の評価点バランスがとれていないといえる。

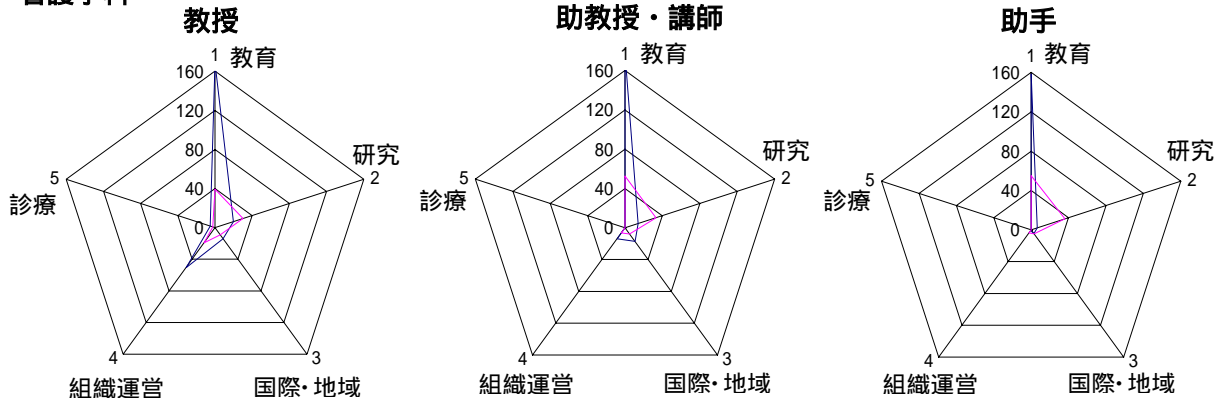
医学科基礎系



臨床系

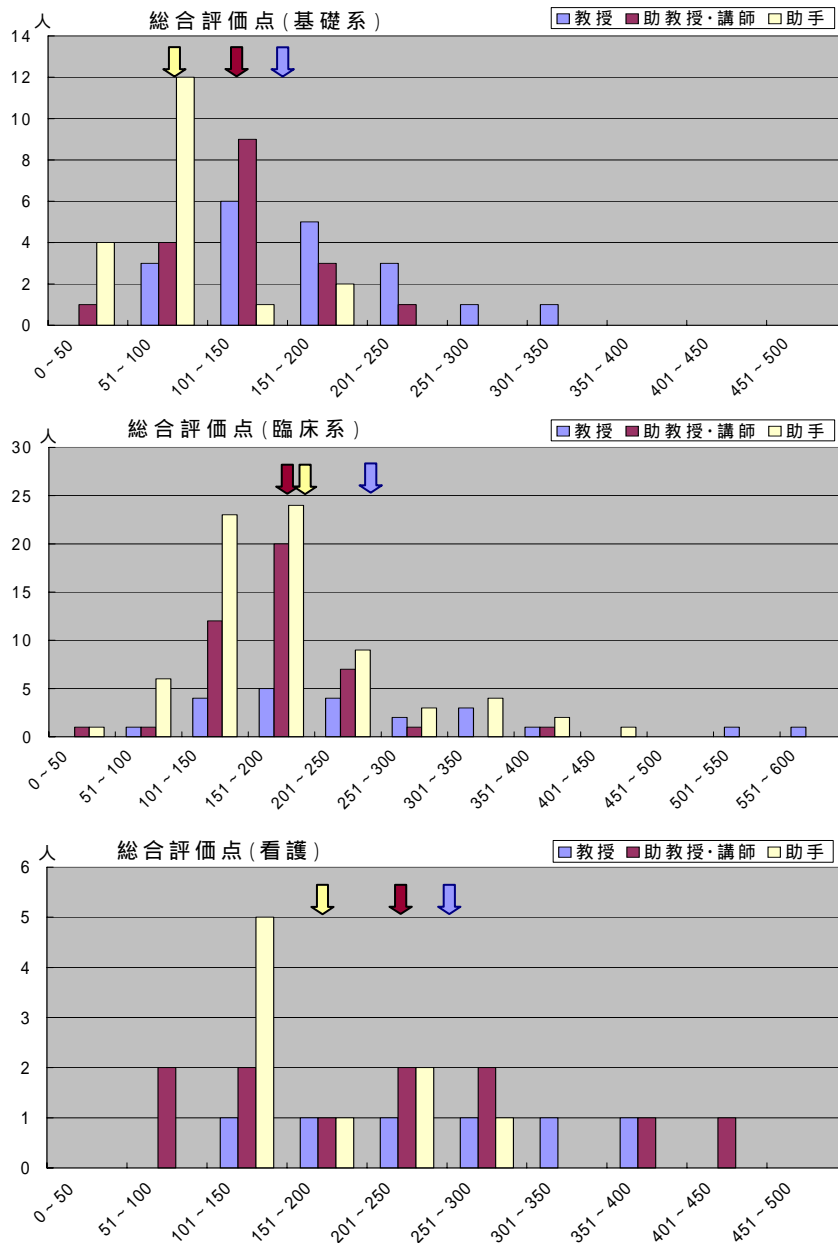


看護学科



3) 職域・職種別の総合評価点数分布

各評領域の合計評価点数を横軸に，評価点に該当する教員の数を縦軸にとったグラフで，評価点の分布と平均点（矢印）を職域・職種別（教授は青，助教授・講師は赤，助手は黄色）に示す。



5. 教員の個人評価（試行）の反省とまとめ

今回の試行を通して、以下のような問題点と今後の課題が明らかになった。

(1) 個々の教員が個人評価の実施に不慣れなことから生じた問題点

- 1) 個人評価の実施に関する説明不足，理解不足から寄せられた問い合わせ，苦情等。
- 2) 実績報告書の記載説明が不十分な為に生じた記載の誤り。
- 3) 自己のデータ蓄積や管理が不十分なことに起因する記載漏れ。

多くの問い合わせに対する対応策の一つとしてとして，医学部ホームページに「個人評価のQ & A」を掲載した。また，記載の誤りや記載漏れ等については，修正・再記入の依頼を行い多くの労力を要した。これらの問題は個々の教員が経験を積むことで，次第に減少すると考えられるが，今後更に個々の教員の理解を深める取組みが必要である。

(2) 部局評価組織が不慣れなことから生じた問題点

- 1) 実績報告書等フォーマット記載上の煩雑性。
- 2) 評価項目や評価点基準の設定の不備，不完全性
- 3) 審査・評価を実施する上での，基準データやノウハウ等の不足。
- 4) 個人評価結果の提示方法の更なる検討。

これらの問題点も，個人評価実施の経験不足や準備不足に起因するもので，今回の試行の経験を生かして，更に改善を行う必要がある。個人評価結果の提示方法については，個人評価結果の活用（評価に基づく改善）に適したものを，更に模索していく必要がある。

(3) 次年度実施に向けての改善策

- 1) 今回の試行結果を各教員にフィードバックすることによる，個人評価に対する理解の深化。
- 2) 実績報告書等フォーマットの工夫，改善。
- 3) 各フォーマットの記入例など，記載説明の工夫，改善。
- 4) 評価項目や評価点基準の見直し。
- 5) 個人評価結果の提示方法等の見直しに伴う実施基準・指針の見直し。

望ましい個人評価のあり方は，1回の試行結果で得られるものでない。次年度の実施結果を踏まえて，更なる改善を行っていく。

佐賀大学医学部における職員の個人評価に関する実施基準（試行）

（ 平成 17 年 9 月 28 日
制 定 ）

（趣旨）

第 1 この実施基準は、国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準（平成 17 年 9 月 27 日制定。以下「佐賀大学個人評価実施基準」という。）第 3 に基づき、佐賀大学医学部（以下「本学部」という。）における職員の個人評価の実施基準に関し、必要な事項を定める。

（評価体制）

第 2 本学部の個人評価の実施に係る評価組織は、医学部評価委員会（以下「評価委員会」という。）とする。

2 評価の対象

本学部が行う個人評価の対象とする職員は、本学部の各講座、部門、診療科、センター（以下「講座等」という。）に所属する大学教員（教授、助教授、講師、助手）及び教育・研究支援職員（教務職員及び教室系技術職員）とする。

なお、医学部附属病院における医療技術職員及び看護職員に対する個人評価の実施については、病院長が別に定める。

（点検・評価項目及び評価基準等）

第 3 点検・評価は次の各号に示す領域ごとに、個人の活動実績と改善に向けた取組について行う。

(1) 大学教員

教育， 研究， 国際交流・社会貢献， 組織運営及び 診療の各領域

(2) 一般職員のうち教務職員及び教室系技術職員

教育支援， 研究支援， 社会貢献支援， 組織運営支援の各領域

2 各領域の点検・評価項目及び評価基準は第 4 の 2 号に定める活動実績報告書によるものとする。

3 各職員は、個性を生かす評価を行うため、自己の職種、職務、能力、関心等を勘案して各評価領域における達成目標ならびに活動ウエイト「重み」配分を予め設定して申告する。

4 達成目標並びに重み配分の設定は、別に定める医学部における個人達成目標及び重み配分の指針に基づいて行う。

（評価の実施方法）

第 4 個人評価の実施は、佐賀大学個人評価実施基準によるもののほか、次の各号により実施する。

(1) 各職員は、毎年 4 月末までに「個人目標申告書」（別紙様式 1）を作成し、講座等の長を経由して学部長に提出する。

(2) 各職員は、毎年 4 月末までに前年度の「活動実績報告書」（別紙様式 2）及

び「自己点検・評価書」（別紙様式3）を作成し、講座等の長を經由して学部長に提出する。

- (3) 評価委員会は、各職員の個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書に基づいて、本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行う。審査に当たり、評価委員会は、審査の公平性を確保するため、必要に応じ、他の職員から意見を求めることができる。
- (4) 領域ごとの評価基準並びに総合評価基準は、自己点検・評価書（別紙様式3）に定めるものとし、総合評価に際しては、職員から先に申告された重みを考慮する。
- (5) 学部長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した「個人評価結果」（別紙様式4）を、講座等の長を經由して当該職員に通知する。
- (6) 職員は、個人評価の結果に対して不服がある場合は、通知後2週間以内に「不服申立書」（別紙様式5）を学部長に提出することができる。その場合、評価委員会は、当該職員から意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行い、その結果を当該職員に「再審査・評価結果通知書」（別紙様式6）により通知する。再審査に際し、評価委員会は、先行する審査に際して意見を求めた職員以外に、更に必要と認められる者から意見を求める。
- (7) 学部長は、各年度の9月末日までに個人評価結果の集計と総合的分析を行い、結果を学長に報告する。

（評価結果の活用）

第5 評価結果の活用については、国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成17年3月1日制定）によるもののほか次の各号によるものとする。

- (1) 職員は、自己の活動状況を点検・評価し、自己の活動改善の資料とする。
- (2) 講座等の長は職員の活動実績を各講座等においてとりまとめ、評価し、講座等の活動改善の資料とする。
- (3) 学部長及び講座等の長は、活動状況の低い職員に対し、活動の改善について適切な指導及び助言を行う。
- (4) 学部長は、個人評価の結果を、職員活動の一層の向上を促すための適切な措置、任期満了時における再任審査及び人事の適正化の資料に活用する。
- (5) 学部長は、講座等ごとの結果を取りまとめ、本学部の教育、研究、国際・社会貢献、組織運営及び診療の改善に役立てる。

（評価結果の公表等）

第6 講座等ごとに取りまとめた活動実績及び個人評価の集計・総合的分析の結果は、教授会等に報告するとともに公表する。

- 2 個人の評価結果は、本人以外には公表しない。

附 則

この基準は、平成17年9月28日から実施する。

「医学部における個人達成目標及び重み配分の指針」(教員用)(試行)

〔平成 17 年 10 月 27 日
医学部評価委員会決定〕

1. 個人達成目標及び重み配分の設定の目的

教員の業績評価は、教員の諸活動の領域（教育，研究，国際交流・社会貢献，管理運営及び診療）について行われる。画一的な基準ではなく，各教員個人の個性を生かす評価を行うため，自主的に達成目標と活動領域の重み配分を設定して申告する。

2. 達成目標設定の方法

各教員は，自己の立場，職務，能力，関心等を勘案して，教育，研究，国際交流・社会貢献，管理運営及び診療の各領域における達成努力目標を以下の例示を参考にして設定し，「個人目標申告書」（別紙様式 1）に記入する。

各領域の目標の例示

教育に関する目標（教授，助教授，講師は 5 つ以上の目標を設定すること）

- 1.学部教育及び大学院教育において講義・実習を可能な限り担当する。
- 2.教養教育の主題科目を担当する
- 3.所属する部局の枠を超えて，横断的に教育に貢献する。
- 4.授業の目的，内容を分かりやすく示した資料を作成し，学生による活用を高める。
- 5.学習要項に到達目標，評価方法・基準を明記し，厳格な成績評価を行う。
- 6.学生による授業評価等を参考にして，授業内容，方法の改善を行う。
- 7.問題発見・解決型授業，学生参加型授業，インターネット(Web)利用授業などの学習指導方法や創造的教材などを開発する。
- 8.臨床実習やセミナーなどにおける個別教育指導について，更に改善を行う。
- 9.PBL チューターを担当し，チューター技量の改善を行う。
- 10.チューター等による，学生指導・支援を積極的に行う。
- 11.大学院生の受入れに努めるとともに，個別教育研究指導の実施を高める。
- 12.卒後研修における指導の改善を行う。
- 13.教育研修（ファカルティ・デベロプメント）に積極的に参加し，自己の改善に資す。
- 14.その他，独自の目標

研究に関する目標（全教員は必須項目を含めて 5 つ以上の目標を設定すること）

- 1.講座等グループの研究を総括し，研究活動を高める。（教授等）
- 2.大学院生等の論文作成指導の量的，質的水準を高める。（教授等）
- 3.Impact factor の付いた学術誌に primary author として複数の論文を発表。
（教授等）

4.Impact factor の付いた学術誌に first author として年 1 編以上の論文を発表。

(助手等)

5.国際学会，全国レベルの学会等で共同演者として発表。(教授等)

6.国際学会，全国レベルの学会で演者として発表。(助手等)

7.地域に密着した研究に取り組む。

8.学内外の共同研究を推進する。

9.研究成果等による知的財産の創出と取得を行う。

10.研究代表者として科学研究費補助金費等の公募に応募する。(全員必須)

11.研究代表者として科学研究費補助金費等を 1 件以上獲得する。

12.受託研究，共同研究等による外部資金の獲得，客員研究員の受け入れを行う。

13.その他，独自の目標。

国際交流・社会貢献に関する目標

1.本学が行う国際的学術交流事業に協力，貢献する。

2.留学生の受入れ，指導を量的・質的に高める。

3.講座等研究グループあるいは個人の英語版ホームページの設置，充実を進める。

4.国際学会，国際交流シンポジウムの開催あるいは参加を行う。

5.国際共同研究者の受入れを行う。

6.日本学術振興会，JICA，JETRO 等の制度・組織を利用した交際交流を行う。

7.本学が行う市民公開講座・開放講座の開設，実施に協力する。

8.地域の教育機関あるいは共団体等への要請による授業，講演などに協力する。

9.国や地方自治体等の審議会や委員会あるいは関連学協会等の活動に協力する。

10.地域産業や地域社会への技術移転を進め，振興・支援に貢献する。

11.本学が行う地域医療支援活動に協力する。

12.その他，独自の目標。

組織運営に関する目標

1.全学の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，大学の運営に貢献する。

2.学部・学科の委員会，検討部会等の委員として積極的に活動し，学部等の運営に貢献する。

3.講座等グループの幹事として積極的に活動し，講座等グループの運営に貢献する。

4.大学や学部が開催する行事に積極的に参加し，その運営に貢献する。

5.その他，独自の目標。

診療に関する目標

1.地域の中核となる特定機能病院として良質の医療を提供する。

2.高度先進医療は勿論，治験を積極的に進め，新薬の開発に寄与する。

3.診療を通して，良い医療人を育成する。

4.医療経営に配慮した診療を行う。

5.保健医療や社会資源を考慮した医療を行う。

6.その他，独自の目標。

3．重み配分の設定と使い方

各教員は，各評価領域における活動の重み配分を合計1となるように設定し，それを総合評価点算出の重みとして用いる。

重みを用いた総合評価算出例（重みの使い方を説明するための仮の例示です）

評価領域 区分 項目	教 育	研 究	国際交流 ・ 社会貢献	組織運営	備 考
A：重み	0.3	0.5	0.1	0.1	重み合計 1
B：領域評価 点(5段階で評 価した場合)	3	4	3	2	評価点を平均した場 合 3.0
A×B 重み加算点	0.9	2.0	0.3	0.2	重み加算点合計 (総合評価点) 3.4

4．重み配分設定の指針

各教員は，自己の職種，職務，能力，関心等を勘案して，下記の表に基づいて各評価領域における活動の重み配分を合計1となるように設定し，「個人目標申告書」（別紙様式1）に記入する。

重み配分基準

評価領域 区分 職種	教 育	研 究	国際交流 ・ 社会貢献	組織運営	診 療	計
教 授	0.3～0.5	0.3～0.5	0.1～0.2	0.1～0.2	-	1
助教授（講師）	0.3～0.5	0.4～0.6	0.05～0.1	0.05～0.1	-	1
助手	0.2～0.5	0.4～0.8	0～0.1	0～0.1	-	1
臨床系						
教 授	0.2～0.4	0.2～0.4	0.1～0.2	0.1～0.2	0.2～0.4	1
助教授（講師）	0.2～0.4	0.2～0.5	0.05～0.1	0.05～0.1	0.2～0.5	1
助手	0.1～0.5	0.2～0.7	0～0.1	0～0.1	0.2～0.7	1
学部長等	0.1～0.2	0.1～0.2	0.1～0.2	0.5～0.7	-	1

（注意）

・この配分基準が自分にあてはまらないと思われる場合は，配分を講座等の長と協議の上，上記設定範囲外に変更することも可能である。その場合には，理由を明記して提出する。

「活動実績報告書」(別紙様式2-1)

平成 年 月 日

この報告書は、平成16年度(16年4月1日~17年3月31日)について記入してください。但し、「研究領域」において、著書・論文等及び学会等の発表実績は、平成16年1月1日~16年12月31日の期間で記入することになっておりますので、注意して記入してください。

講座等名 _____ 講座分野 _____ 職名 _____
氏名 _____

教育の領域

1 学部教育 実績

学部教育： 講義・実習・PBL実績 (臨床実習は次項2)に記載, 大学院授業は下記4-1)に記載する)

区分	授業科目名	対象学科等・学年	学生数	コマ数	時間数	学生による授業評価点
主題科目						
講義						
実習						
PBL チューター						
合 計						

2) 臨床実習指導 実績 (臨床実習指導で各自が果たした役割, 指導内容などを自由記載)

	週平均指導時間数	延べ指導週数
学生による評価点		

「個人目標申告書」(別紙様式1)

平成 年 月 日

「活動実績報告書」(別紙様式2-2)

平成 年 月 日

・黄色枠内に、平成16年度(H16.4.1~H17.3.31)の活動目標(~ の領域)及び領域ごとの活動の“重み”配分を記入してください。但し、16年度の活動目標設定は、事前に設定していないので、空欄でも構いません。
・記入に際しては、「医学部個人評価実施指針」に従って下さい。
・水色枠内「活動実績報告書」(様式2-2)に、16年度実績評点を記入ください。

講座等名 _____ 講座分野 _____ 職名 _____
氏名 _____

教育に関する目標	教育領域の“重み”配分

1-1)の 実績評点	学部教育の評価基準
	1) 講義・実習・PBLの担当授業時間数合計×0.33点 (15回30時間の授業=1単位分10点) 2) 上記の評点に以下の項目点を加算する ・本庄開講の主題科目担当時間数×0.33点 ・鍋島開講の主題科目担当時間数×0.1点 ・本庄学内非常勤担当時間数×0.1点 ・学生による授業評価 満足度評価4以上の科目数×2点 満足度評価3未満の科目数×-2点

1-2)の 実績評点	臨床実習指導の評価基準 (臨床系教員のみ該当, 非該当者は実績評点欄に「N.A.」と記入)
	1) 実質指導時間数(週平均)×延べ指導週数×0.2点 2) 上記の評点に以下の項目点を加算する ・学生の評価が低い場合-2点 ・学生の評価が良い場合+2点 ・学生の評価が特に高い(ベスト10など)場合+5点

3) 医学科選択コース・看護学科医療看護セミナー 指導実績

コース・セミナー名 (指導内容等)	指導学生数	実質指導総時間 (概数)

2 教育改善の取り組み (講義, 実習, PBL/フューチャー等における授業・指導方法の工夫, 授業プリントや教材の作成など)

--

3 教育研修 (ファカルティ ディベロップメント) への参加

研修, 講習会等の名称 (開催日等)	参加時間数

4 大学院, 卒後教育 実績

1) 大学院授業 実績

大学院授業科目名	受講人数	コマ数	時間数

2) 研究指導等 実績

大学院指導学生数	実質的な指導の役割 (実験・調査等の指導或いは指導補助, 論文作成指導, 統括的指導など)	学位取得者指導数 (人)		学位論文審査実績	
		修士	課程博士	主査回数	副査回数

1-3) の実績評価	医学科選択コース・看護学科医療看護セミナー 指導の評価基準 (担当配分が無い場合には, 実績評価欄に「N.A.」と記入)
	1) 実質指導総時間数 × 0.2 点 (臨床実習の配点に準じる)

2 の実績評価	教育改善の取り組みの評価基準
	1) 取組が無い, 或いは取組が具体的でない場合 - 2 点 2) 具体的な取組実績がある場合 + 2 点 3) 高く評価された取組実績がある場合 + 5 点

3 の実績評価	教育研修 (ファカルティ ディベロップメント) 参加の評価基準
	1) 参加実績が無い場合 - 2 点 2) 参加実績があるが, 参加総時間が 8 時間未満の場合 + 2 点 3) 参加総時間が 8 時間以上の場合 + 5 点

4-1) の実績評価	大学院授業実績の評価基準 (非該当者は実績評価欄に「N.A.」と記入)
	1) 大学院指導教員の場合 担当時間数合計 × 0.33 点 (15 回 30 時間の授業 = 1 単位分 10 点) 2) 大学院担当でない教員 (助手等) が実習などの教育に協力した場合 担当時間数合計 × 0.33 点

4-2) の実績評価	研究指導等の評価基準 (非該当者は実績評価欄に「N.A.」と記入)
	大学院指導教員の場合 1) 年間指導学生数 × 5 点 2) 上記の評点以下に以下の項目点を加算する ・学位授与者 1 人につき + 5 点 ・主査回数 1 回につき + 2 点, 副査回数 1 回につき + 1 点 大学院指導教員でない場合 (助手等) 該当する場合にのみ, 指導学生数 × 3 点

5 学内におけるその他の教育活動（全学あるいは全学部的な参加者を対象とした講演やオスキー評価者など）

活 動 の 名 称（演 題 名）	参加者数	総時間数

5 の 実績評点	学内におけるその他の教育活動の評価基準（非該当者は実績評点欄に「N.A.」と記入）
	担当時間数合計 × 0.5 点

6 学生への生活指導等（チューター、クラブ顧問、オフィスアワー等による指導）

指導の区分	指導内容における特記事項

6 の 実績評点	学生への生活指導等の評価基準（非該当者は実績評点欄に「N.A.」と記入）
	1) 一般チューターの実績がある場合 0.3 点
	2) 特別チューターの実績がある場合 0.4 点
	3) オフィスアワー等による学生指導の実績がある場合 0.3 点
	4) クラブ等顧問の実績がある場合 0.1 点

7 上記項目で表せない教育活動の特記事項（必要があれば記入）

--

教育領域 の評価点 1 - 6 の 評点合計	1. の実績評点			2. の実 績評点	3. の実 績評点	4. の実 績評点		5. の実 績評点	6. の実 績評点	7. の実績評 点
	1)	2)	3)			1)	2)			

研究の領域

1 著書，論文等（症例報告は原著に含める）発表 実績

著書，論文等発表の実績（平成16年1月1日～16年12月31日までの実績を記入する）

1) 共著者としての発表を含めた数を記入し，そのうちファースト又はセカンドオーサーとしての発表数を（ ）内に内数として記入する

著書（編）	論文総数（編）	和文原著 （編）	英文原著・総説		
			総数（編）	Impact factorの総和	Impact factor が付いた論文数
Impact factorでは表せない実績					

Impact factor は2004年の数値を記載願います。（附属図書館での検索が可能です。）

2) 著書，論文等の前年度発表実績（平成16年1月1日～16年12月31日までの実績を記入する）

著書，総説，原著，奨励報告等の区分に分けて，研究業績年報の書式に準じて記入する（自分の著者名に下線を付す）

--

必要に応じて枠を拡大して下さい

研究に関する目標	研究領域の“重み”配分

1 の 実績評点	著書，論文等実績の評価基準
	1) 実績がない場合 0 点
	2) 著書が1編以上（数に関わらず） 5 点
	3) 論文総数 論文数 × 1 点
	算 さらに，ファースト又はセカンドオーサーの論文がある場合は，その論文数 × 1 点を加
4) イパ ^o ク ^o ファク ^o ター-総数 イパ ^o ク ^o ファク ^o ターをそのまま点数とする	

2 学会発表等の実績

学会発表等の実績 (平成16年1月1日～16年12月31日までの実績を記入する)

1) 共同演者としての発表を含めた発表等の回数を記入し、そのうち主演者としての発表回数を()内に内数として記入する

国際的学会		国内全国規模の学会		地方会規模の学会		その他の集会等	
一般発表	シンポジウム招待講演	一般発表	シンポジウム招待講演	一般発表	シンポジウム招待講演	一般発表	シンポジウム招待講演

2) 学会発表等の前年度実績 (平成16年1月1日～16年12月31日までの実績を記入する)

国際、国内全国、地方会等、上記の区分に分けて、研究業績年報の書式に準じて記入する(自分の著者名に下線を付す)

必要に応じて枠を拡大して下さい

3 学会への貢献 前年度実績 (この項目からは、平成16年4月1日～17年3月31日までの実績を記入する)

1) 主催した学会等名

2) 学会役員、学術雑誌の編集、レフェリー等 前年度実績

4 学術等に関する受賞(国内学会賞、国際学会賞、その他)前年度実績

学術(学会)賞名	受賞研究課題

2 の 実績評点	学会発表等の評価基準
	1) 実績がない場合 0点 2) 国際的学会 一般発表回数×2点, シンポジウム回数×5点 3) 国内全国規模学会 一般発表回数×1点, シンポジウム回数×2点 4) 地方会規模学会 一般発表回数×0.5点, シンポジウム回数×1点 5) その他集会 一般発表回数×0.3点, シンポジウム回数×0.5点

3 の 実績評点	学会貢献の評価基準
	3-1) 学会等の主催(主催者が該当) 1) 実績が無い場合 0点 2) 全国規模の実績がある場合 1件×5点 3) 地方会規模の実績がある場合 1件×4点 3-2) 学会役員等の実績 1) 学術雑誌の編集委員(件数に関わらず) 5点 2) 学会理事(件数に関わらず) 4点 3) レフェリー(件数に関わらず) 3点

4 の 実績評点	学術等に関する受賞の評価基準
	1) 実績が無い場合 0点 2) 受賞の実績がある場合 1件×1.0点

5 科学研究費等補助金の申請・獲得 前年度実績

申請した研究助成等の名称（種目）	研究課題	該当欄に を付ける		採 択 の 有 無	交付金額 千円
		代表	分担		

6 特許の申請・取得状況 前年度実績

7 上記項目で表せない研究活動の特記事項（必要があれば記入）

--

5 の 実績評点	科学研究費等補助金の申請・獲得の評価基準 1) 代表者としての申請実績が無い場合 0点 2) 代表者として申請実績があるが、採択がない場合（件数に関わらず） 2点 3) 代表者として採択（継続を含む）の実績がある場合 1件につき5点
-------------	---

6 の 実績評点	特許の申請・取得の評価基準 1) 実績が無い場合 0点 2) 申請あるいは取得の実績がある場合（件数に関わらず） 5点
-------------	---

研究領域 の評価点 1 - 6 の 評点合計	1 . の実 績評点	2 . の実 績評点	3 . の実 績評点	4 . の実 績評点	5 . の実 績評点	6 . の実 績評点	7 . の実績評点

国際交流・社会貢献の領域

1 国際交流に関する実績

1) 外国人研究者・留学生等の受入れ人数

外国人研究者		留学生		その他，交換学生等	
長期（1月以上）	短期（1月未満）	国費	私費	長期（1月以上）	短期（1月未満）

2) 留学生派遣等の斡旋，調整 実績

具体例を記入

3) 海外渡航の回数

学会等出席		調査研究・共同研究・研修会等		公務による国際交流事業
校費・科研費支弁	委任経理金・私費	校費・科研費支弁	委任経理金・私費	

国際交流・社会貢献に関する目標	国際交流・社会貢献領域の“重み”配分	0.?

1 の 実績評点	国際交流に関する評価基準 1) 1月以上の外国人研究者，交換学生等の受入 件数×2点 2) 1月未満の外国人研究者，交換学生等の受入 件数×1点 3) 留学生の受入 件数×3点 4) 留学生の派遣，斡旋 件数×2点 5) 公務による海外視察・交流又は交流協定締結校視察訪問 件数×3点 （その他の海外渡航の実績は評点には加えない）
-------------	---

2 海外共同研究 実績

相手先 国・機関	共同研究の内容（代表・分担の区別）

2 の 実績評点	海外共同研究の評価基準
	1) 海外共同研究 件数 × 3 点

3 海外技術協力・支援 実績

対象 国・機関	協力・支援事業の内容

3 の 実績評点	海外技術協力・支援の評価基準
	1) 活動実績 件数 × 5 点

4 国内での共同研究・受託研究 実績

共同研究						
相手先区分 該当欄に を付ける				共同研究費 受け入れの 有無	共同研究 員受け入れ 人数	相手先機関と共同研究の内容（代表・分担の区別）
大学等	民間 企業	政府 機関	自治 体			
受託研究						
相手先区分 該当欄に を付ける				受託研究費 受け入れの 有無		受託研究の内容（代表・分担の区別）
大学等	民間 企業	政府 機関	自治 体			

4 の 実績評点	国内共同研究・受託研究の評価基準
	共同研究 1) 代表者として共同研究費の受け入れがある共同研究 件数 × 3 点 2) 代表者として共同研究員の受け入れがある共同研究 件数 × 5 点 3) 上記 1), 2) 以外で、代表者として共同研究実績がある場合 件数 × 1 点 上記 1), 2) 以外で、分担者として共同研究実績がある場合 件数 × 0.5 点 受託研究 4) 代表者として受託研究費の受け入れ実績がある場合 件数 × 2 点 5) 代表者だが、受託研究費の受け入れが無い場合 件数 × 1 点 6) 分担者としての受託研究実績 件数 × 1 点

5 学外における教育活動（公開講座，出前授業，講演，講習会，非常勤講師など）

活動の区分 該当欄に を付ける			活動の名称（主催），内容等	総時間数
公開講座， 出前授業	講演会， 講習会	非常勤 講師		

5 の 実績評点	学外における教育活動の評価基準
	1) 公開講座又は出前授業 件数 × 5 点 2) 学外コメディカル教育の非常勤講師 件数 × 3 点 3) その他の非常勤講師及び講演会講師 件数 × 2 点

6 国・地方自治体の各種委員会・審議会委員など

6 の実績評点	学外における各種委員会・審議会委員などの評価基準
	1) 委員会等組織の代表者 件数×5点 2) その他の委員 件数×2点

7 上記項目で表せない国際交流・社会貢献活動の特記事項（必要があれば記入）

--

国際・社会 貢献の 評価点 1 - 6の 評点合計	1. の実 績評点	2. の実 績評点	3. の実 績評点	4. の実 績評点	5. の実 績評点	6. の実 績評点	7. の実績評点

組織運営の領域

1 佐賀大学全学委員会，専門部会等（ワーキング グループを含む）における貢献

委 員 会（ワーキンググループ）名	出席回数

組織運営に関する目標	組織運営領域の“重み”配分	0.?

2 医学部，医学科，看護学科，附属病院の委員会，専門部会等（ワーキング グループを含む）における貢献

委 員 会（ワーキンググループ）等名	該当欄に を付ける		出席回数
	委員長	委員	

1 の実績評点	佐賀大学全学委員会，専門部会委員等の評価基準
	1) 委員長としての貢献 件数×5点 2) 委員としての貢献 件数×2点 ただし，1)，2) については年間3回以上の出席に限る

2 の実績評点	医学部内の委員等の評価基準
	1) 委員長としての貢献 件数×3点 2) 委員としての貢献 件数×2点 ただし，1)，2) については年間3回以上の出席に限る

3 1) 教務関係の役職(フェーズ主任, 教科主任)

2) 組織・運営の役職

4 上記項目で表せない組織運営の貢献(必要があれば記入)

--

3 の実績評点	教務関係の役職および組織・運営の役職の評価基準 1) 教務関係の役職実績 件数 × 3 点 2) 組織・運営の役職実績 ・学部長, 病院長 10 点 ・副医学部長, 副病院長 7 点 ・学科長, 図書館医学分館長, センター長 件数 × 5 点 ・代議員, 評議員 件数 × 3 点 ・学長補佐, 図書館長, 全学附属センター長, 室長 件数 × 5 点
---------	---

組織運営領域の評価点 1-3の 評点合計	1. の実績評点	2. の実績評点	3. の実績評点	7. の実績評点

診療に関する調査 (以下は該当者のみ記載)

1 担当診療および診療支援(検査, 病理等)の内容

--

2 診療活動の実績

1) 附属病院院内 診療活動の状況(実働時間は教育, 研究, 休憩時間を除く, 本院内での活動時間のみを記入)

区 分	週 平均人数・件数	週 平均実働時間数
外来診療	人/週	時間/週
病棟診療	受持患者 人/週	時間/週
手術	件/週	時間/週
診療支援	臨床検査	件/週
	放射線	件/週
	内視鏡	件/週
	病理,	件/週
	コンサルテーション	件/週
		件/週
時間外診療	件/週	時間/週
総診療実働時間	合計	時間/週

診療に関する目標	診療領域の“重み”配分	

2 の実績評点	附属病院院内 診療活動の状況の評価基準 2-1) 総診療実働時間数(時間/週平均) × 2 点 2-2) 附属病院院外の診療活動は評点に加えない
---------	---

2) 附属病院院外 診療活動の状況

活動場所	活動の内容	週または月 平均活動時間
		時間/週
		時間/週
		時間/月

3 病院運営の貢献

活動区分	活動の内容	活動に携わった 週平均時間等
チーフ・レジデント		時間/週
リスクマネージャー		時間/週
横断的診療班		時間/週
その他WG 等		時間/週
		時間/週
高度先進医療		件
		/週

4 取得している資格（専門医，指導医等）等

資格名	資格の内容（当該資格取得に必要な要件等）	取得年月日	前年度取得 に印
		年 月 日	
		年 月 日	
		年 月 日	
		年 月 日	
		年 月 日	

5 上記項目で表せない診療活動の特記事項（必要があれば記入）

3 の 実績評点	病院運営の評価基準
	1) チーフレジデント、リスクマネージャー等 (実績時間/週平均) × 2点 2) 横断的診療班 (実績時間/週平均) × 2点 3) 高度先進医療貢献(登録者) 1件につき10点

4 の 実績評点	取得している資格の評価基準
	1) すでに取得している資格 件数 × 2点 2) 当該年度に新たに取得または更新した資格 件数 × 5点

診療に関する 領域の評価点 2 - 4の 評点合計	2 . の実 績評点	3 . の実 績評点	4 . の実 績評点	5 . の実績評点

平成16年度活動の「自己点検・評価書」(別紙様式3)

平成 年 月 日

平成16年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)

平成 年 月 日

氏名：
職種：
所属(科・講座等)：

緑色塗り：各人が記入

灰色塗り：評価委員会等が記入

1. 教育 領域

自己点検評価	重み	実績評価点 合計	領域段階評価	重み加算実績 評点	目標達成率%	重み加算達成点
	a		b	a×b	c	a×c
実績に対する自己評価				目標に対する取組, 成果, 達成率の根拠など		
評価委員会評価	重み	実績評価点 合計	領域段階評価	重み加算実績 評点	目標達成率%	重み加算達成点
	A		B	A×B	C	A×C
実績評価コメント				目標達成評価コメント		

2. 研究 領域

自己点検評価	重み	実績評価点 合計	領域段階評価	重み加算実績 評点	目標達成率%	重み加算達成評点
	a		b	a×b	c	a×c
実績に対する自己評価, 評価点の根拠など				目標に対する取組, 成果, 達成率の根拠など		
評価委員会評価	重み	実績評価点 合計	領域段階評価	重み加算実績 評点	目標達成率%	重み加算達成評点
	A		B	A×B	C	A×C
実績評価コメント				目標達成評価コメント		

3. 国際交流・社会貢献 領域

自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 a×b	目標達成率% c	重み加算達成評点 a×c
	実績に対する自己評価，評価点の根拠など				目標に対する取組，成果，達成率の根拠など	
評価委員会評価	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 B	重み加算実績 A×B	目標達成率% C	重み加算達成評点 A×C
	実績評価コメント				目標達成評価コメント	

4. 組織運営 領域

自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 a×b	目標達成率% c	重み加算達成評点 a×c
	実績に対する自己評価，評価点の根拠など				目標に対する取組，成果，達成率の根拠など	
評価委員会評価	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 B	重み加算実績 A×B	目標達成率% C	重み加算達成評点 A×C
	実績評価コメント				目標達成評価コメント	

5. 診療 領域

自己点検評価	重み a	実績評価点 合計	領域段階評価 b	重み加算実績 a×b	目標達成率% c	重み加算達成評点 a×c
	実績に対する自己評価，評価点の根拠など				目標に対する取組，成果，達成率の根拠など	
評価委員会評価	重み A	実績評価点 合計	領域段階評価 B	重み加算実績 A×B	目標達成率% C	重み加算達成評点 A×C
	実績評価コメント				目標達成評価コメント	

6. 上記の領域評価で表せない特記事項

必要があれば記入

領域評価 集計

評価領域	重み A	実績評価 点	領域段階評価 B	重み加算実績 A×B	目標達成率 C	重み加算達成 A×C
教 育						
研 究						
国際交流・社会貢献						
組織運営						
診 療						
合 計						

総合評価 結果

総合評価	総合評価点	実績評価点範囲	該当	達成努力評価点範囲	該当
特に優れている	5	4.0～		90～	
優れている	3	3.5～3.9		80～89	
おおむね良好	3	3.0～3.4		60～79	
改善の余地がある	2	2.5～2.9		50～59	
改善を要する	1	～2.4		～49	

総合評価 コメント

必要があれば、部局長が記入

平成18年 4月 日

教員 各位
各講座分野等の長 殿

医 学 部 長

教員の個人評価（試行）の「個人評価結果」について（通知）

昨年末に実施した平成16年度活動実績に関する教員の個人評価（試行）において、各教員が提出した「活動実績報告書」の集計及び医学部評価委員会による「個人評価結果表」の作成が終了しましたので、お知らせいたします。

個人評価の実施基準・指針では、自己点検・評価書に評価結果（5段階の総合評価）を記入した「個人評価結果」（様式4）を各教員に通知することになっておりますが、今回は、試行ということもあり、現時点では段階評価の基準を設定するのに必要な十分なデータが集積できていないという判断から、5段階の総合評価を行わず、同封の「個人評価結果表」の形で通知することを医学部評価委員会で決定しました。

なお、個人評価結果は、各講座分野等の長を経由して所属教員に通知することになっておりますので、各教員の「個人評価結果表」を当該講座分野等の長宛てに一括して送付いたします。各講座分野等の長には、評価結果を確認の上、各教員へお渡し願うとともに、教員及び講座等の活動改善に資すよう評価結果の活用をお願いします。

記

「個人評価結果表」の見方

1. 個人評価結果は、1) 基礎医学系及び地域医療教育研究センター、2) 臨床医学系及び中央診療部門、3) 看護学科の各区分ごとに、さらに 教授、助教授及び講師、助手の職種別に細分した職域・職種別グループにおける当該教員の活動状況の位置付けの形で示してあります。
2. 「個人評価結果表」の下段には、職域・職種別グループに属する全教員の各評価領域における点数分布を折れ線グラフで示し、その中に当該教員の評価点数を で示してあります。これにより、教員個人の各評価領域における活動状況が当該グループ内でどの程度の位置であるかを知ることができます。
3. 「個人評価結果表」の上段には、紺色線で各教員の評価点数、赤色線で各教員が申告した重み配分比率（100%を100点に換算）、黄色線で当該職域・職種別グループの平均点がレーダーグラフで表示してあります。

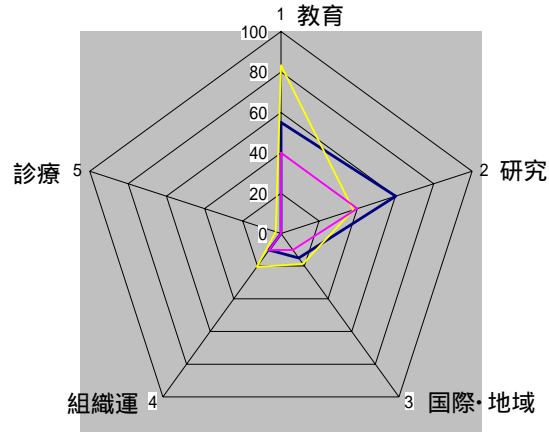
紺色線と赤色線の形を比較することによって、実際の活動状況バランスと予め設定した活動領域の比率の相違が分かります（この場合、両者の点数スケールが異なるので形の大きさは問題になりません）。

また、紺色線と黄色線を比較することによって、各自の活動状況の程度と当該職域・職種別グループの平均値との関係を知ることができます（この場合は、形の大きさが問題になりません）。

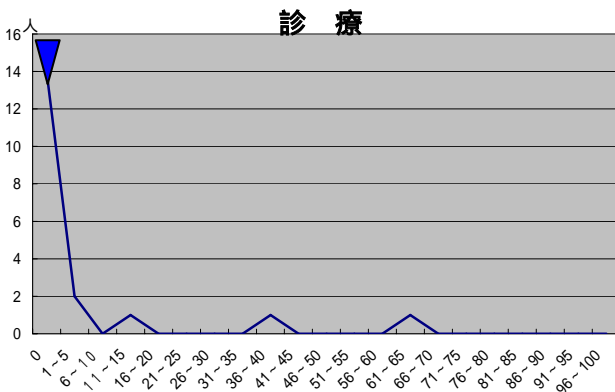
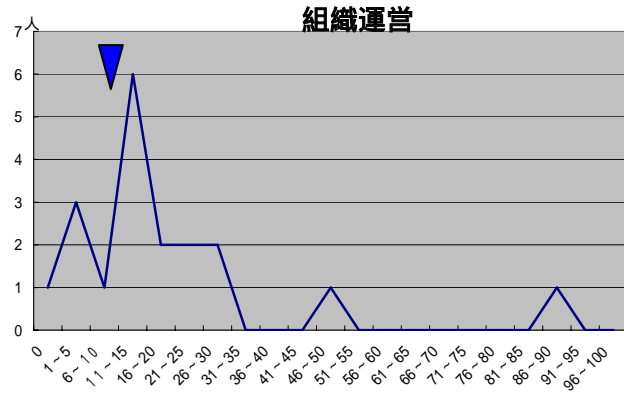
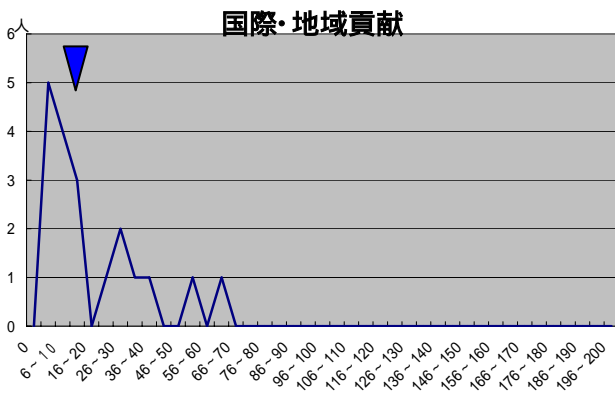
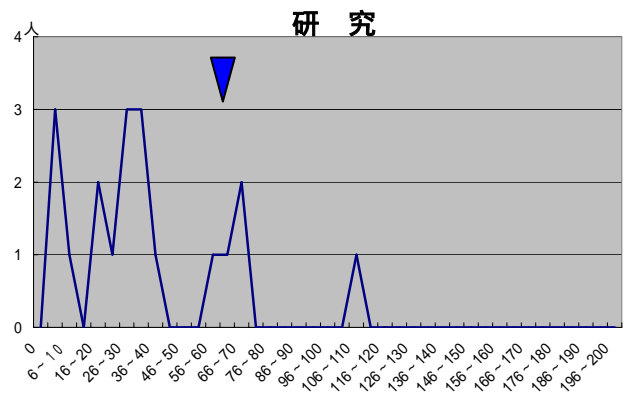
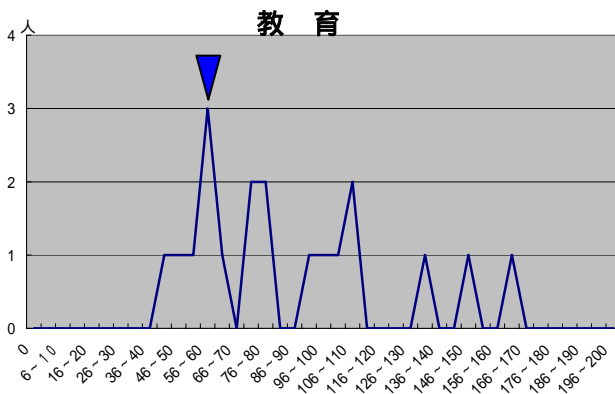
個人評価表

氏名 (基礎医学系 / 教授)

— 個人評価点, — 職域・職種別平均点, — 重み配



職域・職種別グループの評価点分布と個人評価点 (▼)



個人評価結果のコメント

教育, 組織運営の領域において, グループ平均よりひくい, 研究の領域では優れている。

重み配分の割合と個人評価点を比較すると, 同じような形状を描いているので, 目標通りの結果がでていると思われる。